

## SUPER GT 2020 最終戦レポート

11/28(土)29(日) 富士スピードウェイ

予選は、コースレコードでトップタイムを叩き出し、ポールポジションを獲得。

気温13℃、路面温度17℃と前例のない条件で迎えた予選日。予選Q1を平川亮選手が担当。路面温度の低さから予選開始直後に各車コースインする中、37号車 KeePer TOM'S Supra も残り8分でコースイン。じっくりとタイヤに熱を入れるように丁寧にラップを重ねていき、チェッカーが提示された最終アタックラップ、平川選手の渾身のアタックでトップタイムをマークし、予選Q2へ進出。予選Q2開始後、すぐにコースインした山下健太選手。各マシンがベストタイムを更新した時点ではまだ7番手の37号車は、チェッカーフラッグが掲示された最終アタックラップに各セクターベストタイムで通過、結果的にはコースレコードでトップタイムを叩き出し、ポールポジションを獲得。1ポイントを加算して単独トップで明日の決勝レースに挑むことになった。

2位以下を引き離し、独走態勢でトップを走り続ける。

最高の形で迎えた最終戦決勝日。気温8℃、路面温度13℃と昨日よりさらに気温が低いと、フォーメーションラップを2周する予定であったが、さらに1周追加され、3周のフォーメーションラップののち決勝レーススタート。スタートドライバーは山下選手が担当。ミシュランタイヤの23号車が驚異的なタイヤの温まりで一気にトップへ躍り出るが、タイヤに熱が入った6周目に37号車がトップを奪い返すと、2位以下をどんどん引き離し独走態勢となる。23周目にピットインするまで山下選手は、2位以下に10秒以上の差をつけ、ステアリングをエースの平川選手へと託した。

100号車がつめよるものの、慌てず間隔を保つ。誰もが勝利を期待した、その時…。

コース復帰直後、タイヤ無交換のスーパー6号車にトップの座を渡すが、タイヤに熱が入った平川選手の敵ではなく、トップへ振り返ると、2位以下をどんどん引き離して独走態勢を築く。レース終盤に2位の100号車が一気にペースアップをし、どんどん詰めてくる。残り3周の時点では3秒後方まで接近してきたが、それに対し慌てることなく100号車との間隔を保つ平川選手。ところが、チェッカーまで残り2周のところで、平川選手からの突然の無線にピット内は氷ついた。

## 届かなかった500m、足りなかった0.5ℓ。 #37 KeePer TOM'S GR Supra、 シリーズランキング2位で激動のシーズンを終える



あと500mのところまで100号車に抜かれ、2位でゴールした後、動かなくなった37号車「KeePer TOM'S GR Supra」。勝負は最後の最後まで分からない。でもそれがレースの面白さでもある。来年は息を吹き返し、悲願のチャンピオン獲得を目指します!

### 「フューエルアラートがついた」。凍りつくピット内。

「フューエルアラートがついた」。この警告灯はガソリンの残量が少なくなった時につくアラート。これがついてしまった場合は1、2周でガス欠になってしまう。チーム側はちゃんと予定通りにガソリンは入っているので平川選手からの無線に対し「ガソリンは大丈夫だよ」と返信する。しかしその後、平川選手から再度無線が入る。「(フューエルアラートが)消えた」。

ピットではこの無線に、さらに緊張感が増した。おそらくコーナーリングのGフォースでガソリンの油面が揺れ、アラートが消えたと想像できる。ということはフューエルアラートのセンサーはちゃんと機能している…。

誰もが想像しなかった。  
念願のシリーズチャンピオンが零れ落ちる。

この時点でマシンは最終ラップ。祈るような気持ちでモニターを見つめる。無線のやり取りを知らないスタッフ、レースクイーン、カメラマン、BSのタイヤスタッフがサインガードへ駆け寄り、37号車のチャンピオンチェッカーを待ちわびている。しかし、最終コーナーを立ち上がったところで、ガス欠症状が出て失速。ゴールラインまであと500mのところまで2位の100号車に抜かれ2位でゴール。

2017年にチャンピオンを獲って、以来2年連続でチャンピオンに届かず、シリーズ2位となっていたが、手につかみかけていた念願のシリーズチャンピオンが目の前で零れ落ちてしまった。

3年ぶりのチャンピオン獲得に向け、応援していただきました皆様には残念な結果となってしまったが、ドライバー、チームは最後まで全力で戦いました。応援、誠にありがとうございました。

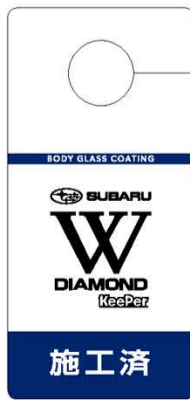
### 「SUBARU WダイヤモンドKeepPer」の販売を開始しました

SUBARUとKeepPerのダブルネームにて、SUBARUオリジナル高級ボディコーティング「SUBARU WダイヤモンドKeepPer」を10月29日より発売開始しました。この製品はSUBARUディーラーにて、新車購入時に高級化志向のお客様のニーズに合わせて、順次導入がはじまっています。

SUBARU新車納車整備センターのコーティング施工者へのKeepPer技術認定制度を独自に導入し、全国同一の高い仕上り品質を確保しています。



※A3二つ折りパンフレット



※施工済タグ

### TOKYO AUTO SALON 2021に初めてKeepPerブースを出展します

2021年1月15日(金)~17日(日)に幕張メッセで行われる東京オートサロンに、KeepPerが初出展します。東京オートサロンは日本で開催されるカスタムショーの中で最大の規模を誇り、昨年の来場者数は3日間で33万6060人。一般ユーザー向けのカスタムカーのイベントとなっているので、たくさんの方の「車好き」の方がいらっしゃいます。

EXキーパーを軸とした展示を予定し、EXキーパーのプランディングにも力を入れます。ブース内には、EXキーパーを施工したTOM'S GR Supraを置く他、半分EXキーパーを施工したボンネットに触れるように展示します。展示以外にも、複数の催し物も予定しています。コロナ対策には十分に気を付けて運営します。ぜひ足をお運びください!



KeepPerブースの場所は東ホール中央の奥です。

### 2021年、キーパー技術コンテストを開催します!!

2020年の第7回キーパー技術コンテストは、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を考え、残念ながら中止せざるを得ない結果となりましたが、2021年は、コロナ対策をしっかりと実施した上で、開催をいたします。開催時期も、寒い2月スタートではなく、暖かくなる4月ごろからのスタートを考えております。

今回の技術コンテストは、2年分の開催として、第7回2021年のキーパー技術コンテストを特別大会とし、大幅にパワーアップしての開催を企画予定です。大会概要などは、確定次第お知らせいたします。ぜひ、皆様のご出場をお待ちしております!

